

活動ピックアップ!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 長岡 みんなのSDGs

川口 地域 Kanaguchi 「森・里・海をつなぐ川」の会
川遊びで自然の豊かさ、厳しさを学ぼう



魚野川やその支流の河川環境を整備し、生態系を保全する活動や自然環境に触れる学び場づくりに取り組んでいます。魚の遡上を助けるため川に設ける工作物「魚道」の周辺で、子どもたちと魚の放流や、水遊びをする際の安全指導を実施。10人乗りの Gondola 型カヌー「Eポート」の体験乗船も行っています。参加者には、川や自然に親しみきっかけを提供すると同時に、いざという時の備えとなるような知識も習得してもらえたらうれしいです。

11 住み続けられるまちづくりを 中越市民防災安全士会 女性部シュークリーム
女性目線の誰一人取り残さない防災



災害から身を守るために、防災意識や知識・技術の向上につながる講座や、女性ならではの視点を生かした防災グッズづくりや災害食のバッククッキング体験などを行っています。災害に強い設備や施設を整えることも重要ですが、誰もが災害対策や防災の意識を持ってなければ「災害に強いまちづくり」になりません。私たちは、これからも脆弱な立場にある人々に気配りができる防災の取り組みをしていきます。

市民活動 虎の巻

研究テーマ 広報物作成に役立つ便利ツール

皆さんはチラシなどの広報物を作るとき、どのようなツールを使っていますか？
今回は参考になるチラシを検索できるツールやフリーの画像サイトをご紹介します！
※素材ごとに、使用条件が異なります。詳しくは各ページでご確認ください。



便利ツール 1 参考となるチラシが見つかる Pinterest 「Pinterest」

Googleやお使いの検索エンジンで「○○ イベント チラシ」と検索しても参考になるチラシが出てきますが、Pinterestなら、自分の好きな系統のデザインを集めて保存しておいて、さらに閲覧したデザインに類似したおすすめデザインを提示してくれるレコメンド機能が魅力です。また、メンバーとの共有も簡単にできますよ！



便利ツール 2 フリー画像&写真素材を横断検索できる O-DAN 「O-DAN」

サイト内で自分がほしい画像を日本語で検索すると、世界中の無料写真素材の中から候補が絞れ、ほしいものをダウンロードできます。海外テイストな写真が多いですが、ハイクオリティでとてもおしゃれな素材を無料で使えます！



便利ツール 3 挿絵に使えるフリーのイラスト素材集 「ちょうどいいイラスト」

日常生活の情景、食べ物、季節行事など多数のイラストが無料でダウンロードできます。1つのイラストでもカラー版、白黒版と選べるので自分たちのチラシにあったものを使えるのも魅力。

MEMO 今回ご紹介したのは一部です。もっと知りたい方はこちらから



知る、つながる、好きになる
ながおか市民活動情報誌

2022
8
vol. 116
Take Free



学校と地域

持続可能な関係性とは

センターからのお知らせ
まちなかの駅 124名に当たる!!
越後長岡まちなかの駅シールラリーの旅2022
長岡市内に51駅ある「まちなかの駅」は、いつでも寄って休んだり、おしゃべりしたりできる「まちなかの茶の間」。現在、まちなかの駅ではご当地キャラクターシールを集めて応募するとまちなかの駅名産品が当たる「シールラリーの旅2022」を開催中です！この機会に、ぜひ色々なまちなかの駅を訪ねてみてください。

応募締切 2022年9月4日(日)まで

※上記の期間内にシールを集めてご応募ください。
応募するまちなかの駅の休業日が9月4日(日)の場合は、それ以前にご応募ください。

応募方法
① シールラリー実施駅または右のQRから、シール台紙を入手する。
② 応募に必要なシールを集める。
③ 応募欄に必要な事項を記入し、シールラリー実施駅に提出する。

詳しくはこちら

発行 ながおか市民協働センター
〒940-0062 長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F
Tel. 0258-39-2020
Mail. contact@nagaokakyodo.net

つながるラジオ
市民活動のポータルサイト コライト

配布場所 長岡市役所及び各支所、サービスセンターの他、市内図書館、コミセン、子育ての駅等、公共施設に設置しています。

特集
十日町地区雪まつり
～目指せ!あの旧黒川をもう一度!～河川清掃活動
NAGAOKA PLAYERS
佐々木 理江子さん
活動ピックアップ
「森・里・海をつなぐ川」の会
長岡みんなのSDGs
中越市民防災安全士会 女性部シュークリーム



ながおか市民協働センター

学校と地域 持続可能な関係性とは

2004年に導入された、学校と地域住民が協力して学校の運営に関わる「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことで「地域とともにある学校」への転換が図れると期待されています。今月号では、学校と地域が良好な関係を築きながら長く継続されている2つの行事から、異なる立場の人たちが協働して事業をしていくためのヒントを紐解きます。

十日町小学校× 十日町コミュニティ協議会 十日町地区雪まつり

十日町コミュニティ協議会の主催で、2009年に始まった「十日町地区雪まつり」。地区の住民が集まり雪像作りや芸能カラオケ大会、打ち上げ花火大会を楽しみます。新型コロナウイルス感染症の流行前は、豚汁やおこわ、焼き芋などのふるまいもあり、会場になっている十日町小学校の体育館が埋まるほどの人が参加しました。

子どもたちの思い出づくりのために

雪まつりは、住民同士が顔を合わせる機会が減っている中、多世代が交流しながら子どもたちが思い出をつくれるような行事をしようと始まりました。小学校の子どもたちは、カラオケ大会で学年ごとに歌を披露したり、2016年からは6年生が雪上ゲームの企画運営で、まつりに関わっています。過去には、音楽好きな先生が生徒とバンドを組んでカラオケ大会に出演したこともあったそう。子どもたちは、毎年雪まつりに参加するのを楽しみにしています。

それぞれの“得意”を持ち寄る

雪まつりの企画運営に携わっているのは、学校とコミュニティ協議会だけではありません。当日の警備を担う消防団員や、豚汁やお

こわを調理する食事ボランティア、花火を打ち上げるため場所を除雪する農家の方など様々な方が、自分たちにできることを持ち寄りながらまつりに関わっています。「日頃から小さなことでも相談し合うことで横のつながりができ、何かしたいときにみんなが助けてくれる。そしてまつりを通してその関係性が強化され、災害などの有事のときに連携できるのだと思います」と、十日町コミュニティセンター長・竹内正巳さん。コミュニティ協議会が中心になって学校や様々な組織をつなぎ、



1. 芸能カラオケ大会で歌う「ワカッターズ」の皆さん。カラオケ大会では、地域の歌自慢や英語教室に通う子どもたちが歌を披露します。
2. 2020年の雪まつりで、6年生が企画運営した的当てゲームの様子。これまでに、ラグビーやボウリングをしたこともありました。
3. 雪まつりで、毎年行う福まきの様子。この年は、PTA役員と保護者の方が鬼役を買って出てくださいました。

それぞれの特性を活かしながら、行われている行事です。

与板中学校× よいたコミュニティ協議会 ～目指せ！ あの旧黒川をもう一度！～ 河川清掃活動

恐竜のすべり台が目玉の「与板河川緑地たちばな公園」の脇を流れる旧黒川。「～目指せ！あの旧黒川をもう一度！～河川清掃活動」は、かつてはヘラブナ釣りや手作りボートレースで賑わった旧黒川を取り戻そうと、2010年から与板地域がコミュニティの推進準備を進める中で模擬活動としてスタート。2013年からはコミュニティ推進協議会事業となり、2022年には13回目を迎えました。当日は、与板中学校の生徒や呼びかけに賛同した地域住民、地域の企業の方など約250人が集まり、河川清掃に励みます。2015年には、信濃川水系水質汚濁対策連絡協議会より優良団体として表彰されました。

育まれてきた中学生と 地域の関わり

中学生が参加するようになったきっかけは、コミュニティ協議会からの声掛け。人口が少ない与板地域では、昔から地域運動会やマラソン大会など地域の行事に中学生が参加して場を盛り上げてきました。清掃活動では、中学生と地域の方が協力しながら、ごみや枝葉を拾います。新型コロナウイルス感染症流行前は、清掃後に豚汁を食べながら親睦会を開催していました。「子どもたちは地域の宝です。作業を通じて地域の方と接することで、郷土愛が芽生え、地域に誇りがもてるようになるの



1. 2022年の清掃活動で拾ったごみの量は、燃えるごみと燃やさないごみを合わせてなんと100kg!「中学生は小さな枝葉も一生懸命拾ってくれます」と佐藤さん。
2. 新型コロナウイルス感染症流行後は、感染を防ぐため、中学生と地域の方がいくつかの班に分かれて、持ち場の清掃を行っています。
3. 3年生10人は、地域の方と一緒にいかに乗って川の中を清掃。いかに乗りたくない人がたくさんいるため、毎年競争になるそうです。

ではないかと思えます」と、よいたコミュニティセンター長・佐藤文子さんは言います。

win-winの関係をつくる

以前は部活動ごとに有志の生徒と先生が清掃活動に参加していたそうですが、2021年から授業の一部として参加することにしたそう。その理由を与板中学校の小林利明先生はこう話します。「授業の一部として参加することで、生徒はもちろん、先生方が代休を取れるようになり、働き方改革につながりました。またクラス単位で参加することで、クラス替え直後の生徒たちが親睦を深める機会にもなっています。職員も与板の方々と触れ合うことができ、与板について深く理解することもできました」。一方、佐藤さんは「中学生から『もっと成長し、与板に貢献したい』、『機会があれば

積極的に清掃活動に参加したい』といった声をいただいています。清掃活動の実行委員も、『中学生が来てくれてうれしい』『元気をもらった』と話しており、中学生の存在が活動の励みになっています。どちらか一方が負担を感じてしまうことがないように工夫し、互いが協力するメリットを感じられる仕組みをつくるのが大切なのかもしれません。

学校と地域の方が協働して事業を継続するためには、日頃からコミュニケーションを取り助け合える関係性を築くこと、互いにとって負担なく続けられる工夫をすることが大切だとわかりました。それは、学校と地域の関係だけにとどまらず、行政や企業、市民団体の関係にも当てはまることかもしれません。

NAGAOKA ウワサのあの人にインタビュー! PLAYERS

佐々木 理江子 さん

49歳/
高齢者サロン講師(音楽療法士)/
和島地域コミュニティ準備委員

1972年新潟生まれ、柏崎市育ち。音楽療法士として主に和島地域で認知症予防講座を開催する傍ら、地域と行政の架け橋として活動中。



音楽療法で聞こえた声を 行政やまちづくりに還元

結婚を機に和島地域で暮らす佐々木さんは保育士退職をきっかけに、音楽療法士に転身。介護予防や認知症予防を目的に高齢者を対象とした講座の講師をしています。地域内の17集落で行われている、いきいきサロン活動でも講師を務め、高齢者に寄り添った取り組みを続け2022年で11年になります。

そんな地域密着の実績を買われ、佐々木さんには和島地域コミュニティ準備委員という顔も加わりました。2023年のコミュニティセンター立上げを目指す中で行われた住民参加の意見交換会で佐々木さんは、高齢者が自宅に近い環境でリラックスして過ごせるよう、施設に和室を設けることを提

案。他にも、用事がなくても立寄れる抛り所になればとラウンジのようなスペースの設置を提案するなど、日頃耳にする高齢者の声を代弁しました。そんな佐々木さんの発言が呼び水となり、「学校と連携した企画をしたい」「伝統料理をみんなで作りたい」など、参加者からもたくさんの「やってみよう」が集まりました。

一方、こうして委員を務める中で見えてきた課題もありました。「地域にとって良い事業でも、住民に共有されるのは事務連絡のような書面の場合が多く、この形で住民にどこ

まで伝わるのかと不安に思うことがあります」。地域住民が知らないうちにことが進むのは避けたいという想いで、佐々木さんは地元集落の総会へ出席し委員会の進捗を直接報告しているそう。コミュニティセンター立上げ事業をきっかけに、地域のつながりを更に深めていきたいと委員の役割を超え、行政と住民の架け橋役に奮闘しています。地域住民とまちづくり事業の間に立ち、丁寧なコミュニケーションを心がける佐々木さんのような存在がまちづくりには欠かせないのかもしれません。



高齢者と童謡を歌いながら手の体操を行う佐々木さん。講師を通して聞こえる声や見える課題をまちづくりに還元しています。